

琉球大学学術リポジトリ

本学における高大連携推進プロジェクト

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西本, 裕輝, Nishimoto, Hiroki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41710

本学における高大連携推進プロジェクト

西本 裕輝 (大学教育センター)

はじめに

近年、18歳人口の減少により、大学にとって学生定員の確保は大きな問題となっている。一方で、子どもの学力低下や学習意欲の低下が社会問題となっている。こうした問題に対応する一つの方策が、高大連携の中で行われている「出前講座」などの取組であろう。高校生が大学の授業を体験することのできる取組であるが、大学側にとっては学生の確保、高校側にとっては学習意欲の向上に繋がるといふメリットがあると思われる。

しかしながら、へき地を多く抱える本県においては、こうした取組は容易ではない。例えば離島の高校との連携は非常に困難である。そうした問題を解消するため、大学教育センターでは17年度より、高大連携を支援・推進している。これは大学教員が主に離島の高校に出向いて授業を行うことを予算面などで支援するプロジェクトである。こうした取組を継続することにより、離島と本島との大学進学率の格差の是正にも繋がると期待している。

1. 本プロジェクトの背景～沖縄県が抱える低学力問題と地域間格差

沖縄に位置する大学で高大連携を推進する意義は大きい。それは全国でもっとも学力の低い県であるということと同時に、県内でも離島と本島の格差など、学力の地域間格差があるという理由からである。

例えば、大学進学率（大学・短大への進学率）で見ると、全国平均が50%に達しているのに対して、沖縄県は30%程度で推移しており、全国最下位である。また、ここでは詳細にはふれることはできないが、私が4県で行った学力調査においても、沖縄と県外との学力格差は依然として大きいことが確認されている。こうした状況下で実際に大学の授業を体験してもらうことにより、進学意欲の向上を促すことができると考えられる。少な

くとも、大学進学をまったく考えていない生徒にとって、選択肢の一つに加えてもらうだけでも、効果が期待できる。

学力の地域間格差については、例えば進学校の大学進学率（17年度実績）で比較してみると、本島内の那覇市に位置する高校の進学率はおおむね高い。首里高校：79%、那覇国際高校：87%、開邦高校：95%といった状況である。ところが本島北部や離島の進学校の大学進学率は宮古高校：53%、八重山高校：50%、名護高校：44%と軒並み低めとなっている。ここでは詳細にはふれることはできないが、私が県内で行った学力調査においても、都市部と農村部ではかなりの開きがあることが確認されている。こうしたいわゆる「へき地」の高校と積極的に連携を取ることで、大学側としては受験生層の拡大を、高校側としては学習意欲向上による進学率の向上の効果が期待できる。そして最終的には沖縄県全体の学力の底上げに寄与することができれば幸いである。

2. 本プロジェクトの意義

本プロジェクトは、そうした背景をふまえて、平成17年度より中期計画実現プロジェクト経費の助成を受けることにより実施している。そして、本学の教員が高校へ出向いて行う「出前講座」、高校生が本学に来学して模擬授業を受ける「琉大訪問」などの実践を通して、高大連携事業を推進することを目的としている。その期待される効果は以下のようにまとめることができるだろう。

- ①高校生に多くの講義を提供することにより、地域貢献ができる。
- ②高校生に大学の講義の体験を通して琉球大学に興味を持ってもらい、受験生の増加や学生の確保につながる。
- ③実際に授業を高校生に体験してもらえるの

で、入学後のミスマッチが解消できる。

3. 高大連携の定義

重複するが、本学における高大連携を定義するならば、主に以下の三つに区分できる。

- ①「出前講義」＝本学の教員が高校（離島も含む）へ出向いて授業を行う取組
- ②「琉大訪問」＝高校生（離島も含む）が本学に来学して模擬授業を受ける取組
- ③「公開授業」＝正規の授業を高校生にも公開する取組

今回は上記のうち、特に①と②について見ていく。

4. 本プロジェクトの概要

本プロジェクトは主に三つの部分からなる。

- ①「県内高校長を対象としたニーズ調査」、
- ②「高大連携に参加した高校生を対象とした満足度・ニーズ調査」、
- ③「出前講義」及び「琉大訪問」の実施である。

①「県内高校長を対象としたニーズ調査」は、県内すべての高校長に対して、本学との高大連携についてどのような意識・ニーズを持っているかを調査したものである。平成17年度に実施し、72.2%の高校から回答を得ることができ、かなり貴重なデータを収集できた。詳細な手続きや結果については後述する。

②「高大連携に参加した高校生を対象とした満足度・ニーズ調査」は、18年度から開始し現在も継続中の調査であるが、高大連携に参加した高校生を対象に、講義を受けた上での満足度等を尋ねた調査である。18年度に限って言えば、749名から回答を得ている。詳細な手続きや結果については後述する。

③「出前講義」及び「琉大訪問」は、実際に本学教員が関わった講義である。ちなみに、「出前講義」については、18年度から経費を大学側で持つことにより、特に離島での講座数を増やすことができた。18年度実績で、八重山高校で6講座、宮古高校で2講座、受講生徒合計数273名と、過去最高の受講者があっ

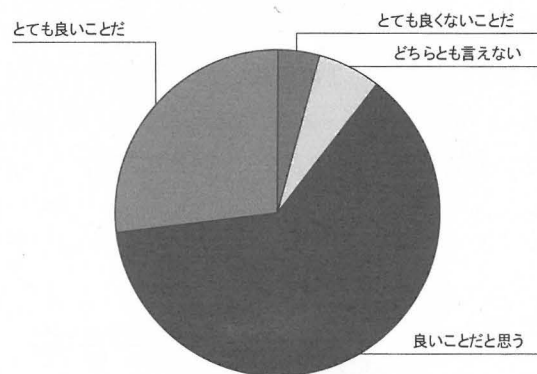
た。また「琉大訪問」では、18年度、本島内の4校合計545名の受講者を受け入れた。

ここでは以上三つの取組について、述べたい。

5. 高校長調査より

平成17年度に行ったのは、県内の全高校の高大連携に関するニーズ調査（高校長対象）の実施である。調査結果から高校側のニーズが浮かび上がった。調査は2006年2月に郵送法で実施し、回収率は72.2%であった（郵送数：68校、回収数：49校）。ここでは調査から得られた結果について概観したい。

まず、高大連携を進めていくこと自体を高校側がどのように考えているかについてであるが、「とても良いことだと思う」（27.1%）、「良いことだと思う」（62.5%）と、9割が高大連携について積極的であることがわかった（グラフ1）。



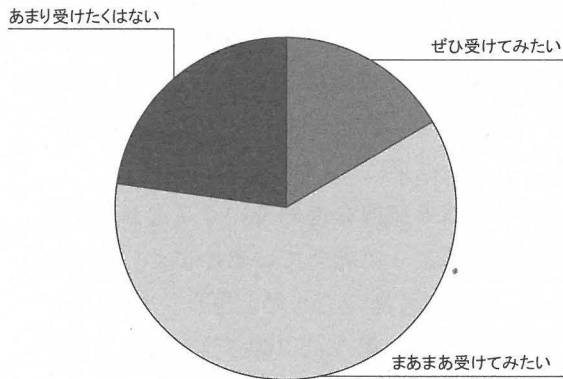
グラフ1) 高大連携の是非

また、大学の授業を受けてみたいかどうかについて、生徒の意識（生徒の意識を校長が予想）を尋ねたところ、「ぜひ受けたいと思っている」（16.7%）、「まあまあ受けたいと思っている」（60.4%）で、「まったく受けたくない」は0%であり、ニーズが高いことがうかがえた（グラフ2）。

希望時間帯（複数回答）であるが、1位…金曜日の4限目（25.0%）、2位…金曜日の5限目（20.8%）、水曜5限目（16.4%）であり、比較的4限目以降の希望が高かった。今

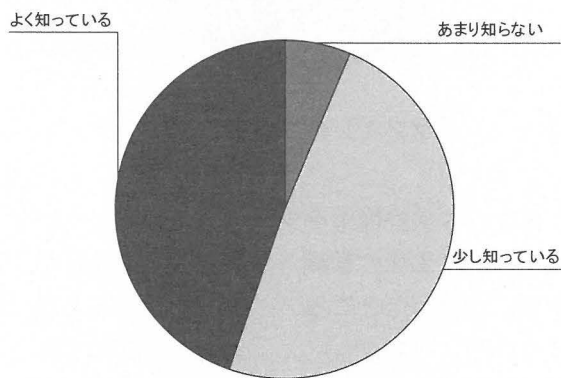
後はこうした高校側の都合も理解したうえで時間帯の設定を行うべきだろう。

こうしたデータはこれまで本学にはなく、今後高大連携を推進していく上で貴重なものであり、こうした基礎データを得られただけでも一定の成果と言える。



グラフ2) 生徒の高大連携への参加意識

次に、本学の高大連携事業に関する認知度について尋ねた結果がグラフ3である。「よく知っている」(44.7%)、「少し知っている」(48.9%)、「あまり知らない」(6.4%)と、認知度はかなり高いと判断できる。



グラフ3) 本学高大連携事業の認知度

以上見たように、本学の高大連携事業に関する高校側の認識は、かなりよいように思われる。今後、本プロジェクトを継続していくことにより、ますますの向上が期待できる。

6. 最近の実績

最近の「出前講義」及び「琉大訪問」について一覧表にまとめたものが最後に掲載している資料である。

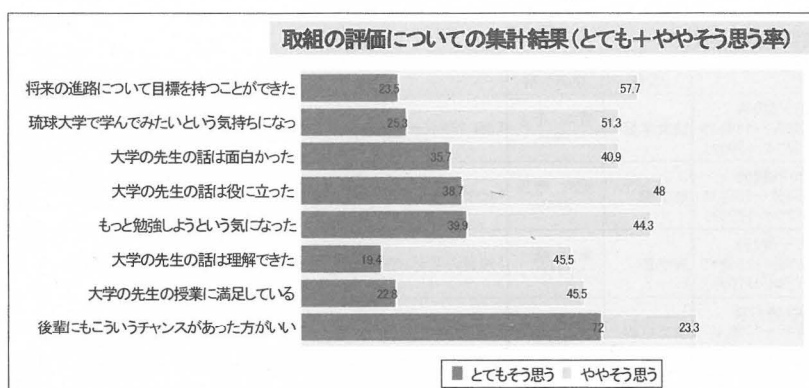
表からわかるように、本プロジェクトにより、多くの高校生が本学の講義を体験していることがわかる。

また、教員の参加も積極的で、ほとんどの学部の教員が高大連携に関与している。

7. 高校生調査より

先ほどもふれたが、高大連携を推進するための基礎データを収集するため、高校生を対象とした調査を実施した。対象は、18年度に琉大訪問に参加した生徒（陽高校・・・314名、具志川高校・・・61名、名護高校・・・154名、南風原高校・・・16名、合計545名）と、やはり18年度に出前講義を受講した生徒（宮古高校・・・11名、八重山高校・・・93名、合計204名）、合計749名である。調査実施日は琉大訪問と出前講座の実施日と同じである。

まず講義そのものの評価についてであるが、次のグラフに示すように、評価はおおむね良好である。



グラフ4) 受講生による講義の評価

高校側のメリットという観点から、結果を見てみよう。「将来の進路について目標を持つことができた」の「そう思う」（とてもそう思う+ややそう思う）率は81.2%であり、「もっと勉強しようという気になった」が94.2%である。このことから、将来目標の設定、学習意欲の向上が期待できることがわかる。

また大学側のメリットとしては、「琉球大学で学んでみたいという気持ちになった」76.6%、「大学の先生の話は役に立った」86.7%など、将来の受験生となる可能性を示唆する結果が得られている。

その他にも「大学の先生の授業に満足している」については、とてもそう思う・・・22.8%、ややそう思う・・・45.5%と、7割近くの生徒が満足していることがわかるし、「後輩にもこのようなチャンスがあった方がよい」については、とても・・・72.0%、やや・・・23.3%と、9割以上の生徒がそう思うと回答しており、今後への期待が大きいこともわかる。

なお、高校生が受けてみたい学問分野別に尋ねており、比較的希望が高かった心理学分野の講義を高校生も参加できるような時間帯に新設した（「沖縄の学力と教育」）が、質問の分類の仕方について農学部からのクレームがあったため、本結果についてはここでは報告せず、継続調査を行いたい。この場をかりて、関係者の方々にご迷惑をおかけしたことをお詫びしたい。

まとめ

以上のように、これまで大学教育センターと生涯学習教育研究センターが推進してきた高大連携事業であるが、17年度より本プロジェクトによりさらに実施体制を強化し、多くの高校生を受け入れている。

高校側の理解もある程度有り、意識も比較的高いと言える。また参加した高校生の評価もかなり高いと言える。

今後はさらに担当教員の配置増を進め、範囲の拡大（宮古・八重山以外にも本島内のへき地、久米島、奄美大島など）をはかりたい。本プロジェクトによって高校生が大学進学について違和感を感じないような環境をつくりながら、へき地の受講生増、へき地からの受験生増、へき地からの合格者増を目指し、最終的には、へき地の大学進学率向上を目指したい。そうしたことが達成されれば、沖縄県全体の学力向上や学力格差問題の解消も期待できる。

なお、本プロジェクトについては、大学教育センターHP (<http://w3.u-ryukyu.ac.jp/daijyoc/>)でも公開されている。

平成18年度出前講義実施状況

日 時	学部	担当教員	講義名	受講予定数	受講者数	高校	随員	
10月24日(火)	5~6校時 13時55分~15時45分 90分(アンケート20分)	法文学部	青木 孝之 (8905)	「潰しが利くから法学部？」	30名以下	41名	八重山高校 真栄田 0980-82-3972 FAX0980-83-1065	大村教務課長代理
	5~6校時 13時55分~15時45分 90分(アンケート20分)	理学部	堀内 敬三 (8895)	「化学結合はどうやってできているのか」	30名以下	23名		
	5~6校時 13時55分~15時45分 90分(アンケート20分)	農学部	亀山 統一 (8794)	「沖縄の基地と自然環境」	30名以下	30名		
10月26日(木)	6校時の後 16時半~17時半 60分(アンケート10分)	法文学部	狩俣 繁久 (8285)	「ウチナーグチ入門」	20~30名	29名	八重山高校	那須教務課長
10月31日(火)	6~7校時 14時50分~ 90分(アンケート20分)	法文学部	浜崎 盛康 (8860)	「高校生のための倫理学入門 -いかに生きるべきか考える-」	40名	36名	宮古高校 高嶺 忍 0980-72-2118 FAX0980-72-8209	大学教育センター 西本助教
	6~7校時 14時50分~ 90分(アンケート20分)	法文学部 (大学教育センター長)	石原 昌英 (8301)	「自分の視野をいかに広げるか-留学の勧め-」	80名	74名		
12月5日(火)	6校時の後 16時半~17時半 60分(アンケート10分)	理学部	堀内 敬三 (8895)	「ミクロの世界」	20~30名	10名	八重山高校	西里教務第二係長
平成19年 3月16日(金)	13時半~17時半 60~70分 (質疑等20分程度)	法文学部 (大学教育センター長)	石原 昌英 (8301)	「英語の発音について」	20~30名	30名	八重山高校	なし
				合計		273名		

平成17,18年度琉大訪問実施状況

日 時	学部	担当教員	内容	訪問者数	学校	
平成17年7月7日	9時40分~	大教セ	西本裕輝	おもしろ心理学	120名	宮里中学校
	10時20分~	法科大学院	稲葉耶季	何のために勉強するか		
	10時50分~	大教セ	渡久山 章	みかけと本物		
平成17年10月7日	10時~	大教セ	石原昌英	趣旨説明	34名	伊良部高等学校
		就職セ	西本裕輝	学力の心理学		
		就職セ	島袋恒男	夢を実現するには		
平成17年10月18日	13時30分~	大教セ	石原昌英	趣旨説明	102名	具志川高等学校
			西本裕輝	学力の心理学		
			浜崎盛康	人間だけができる価値あること		
平成17年11月14日	10時10分~	入試課	琉球大学の入試情報等	36名	球陽高等学校	
	10時30分~	当該学科の教員と学生	学部案内及び交流			
	14時10分~	就職課	琉球大学の就職情報等			
	14時30分~	当該学科の教員と学生	学部案内及び交流			
				小計	292名	
平成18年9月28日	10時30分~	大教セ・各学部・図書館等	模擬授業・教職員への質疑等	319名	球陽高校	
平成18年10月16日	12時~	大教セ・入試課・図書館等	模擬授業・体験授業等	80名	具志川高校	
平成18年11月8日	10時~	大教セ・図書館・生協	模擬授業・体験授業等	16名	南風原高校	
平成18年11月15日	10時30分~	大教セ・図書館・生協	模擬授業等	158名	名護高校	
				小計	573名	
				合計	865名	